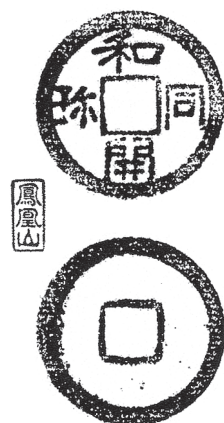


愛錢紹介

鳳凰山 神野良英

古と同開珎「広穿隸開」銅錢

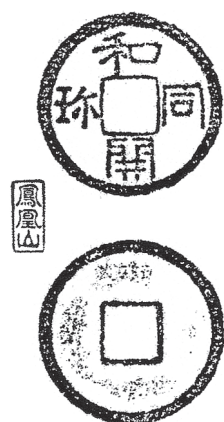


鳳凰山

古と同開珎・銅錢は新と同開珎への過渡期銭と考えられる「隸開」の一種を除き、いずれも稀少な存在にて、「収集対象外」と考ふる古泉家も少なくありません。
ここに紹介させていただく「広穿」の類（広穿隸開）は、古と同開珎・銅錢の中では比較的目にする機会のあるものかもしれませんが、それとて入手の機会は限られるものでしょう。
本品は極めて状態の優れた一品と思われる、数ある「最愛の品」の中でも「最高の品」となっています。

(2倍大)

古と同開珎「隸開」銅錢



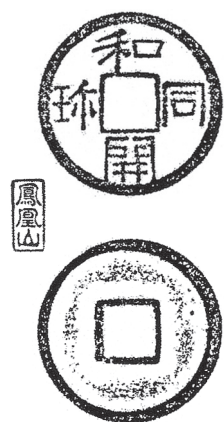
鳳凰山

こちらが一般に「隸開和同」と呼ばれるもので、上掲の「広穿隸開」に比べると細縁大字とでもいった感じでしょうか。
この「隸開」に限り、銀銭より銅銭の方がより多く存在し、入手の機会もあるかと思われます。
本品は郷土の先師で「錢聖」とも称される一豊舎・山田孔章師の旧藏品ということに加え、日本一の「隸開和同」といっても過言ではないほどの好状態のものにて、これもまた「最愛の品」でもあるのです。

(皇朝錢雜記・第二話掲載品)

(2倍大)

新と同開珎「長珎」



鳳凰山

毎月のように開かれる様々な催事やオークション、そして各地の古泉会での情報等が瞬時に伝達される今日のネット社会においてさえ、この「長珎」にお目に掛かる機会はそうそうないでしょう。
ちなみに、本品はその特徴より「長珎長頭和」と分類されることもあるようですが、かつて天頭堂・大川鉄雄師が「長珎のオリジン」と称したこともあるように、稀少な「長珎」類の中でも格段に少ないものと思われます。

(皇朝錢雜記・第四話掲載品)

(2倍大)